

競 技 注 意 事 項

1. 本大会は2018年度（公益財団法人）日本陸上競技連盟競技規則及び本大会申し合わせ事項により行う。
2. 今大会は、本競技場及び補助競技場を使用する。
3. 競技者の招集について
 - (1) 招集所は競技場第1ゲート側の外に設ける。
 - (2) 招集開始時刻および招集完了時刻は、すべてその競技の開始時刻を基準とし、下記の通りとする。

種 目	招集開始時刻	招集完了時刻	種 目	招集開始時刻	招集完了時刻
トラック競技	20分前	15分前	棒 高 跳	65分前	60分前
フィールド競技	35分前	30分前			

- (3) 招集方法
 - ア 競技者は出場種目の招集開始時刻に招集所にてチェックを行う。事前に一次点呼として掲示板のリストに○印をつけること。
 - イ 招集完了時刻に遅れた競技者は、当該競技種目を棄権したものとみなし処理する。
 - ウ 他の種目と兼ねて出場する競技者は、その旨を競技者係に申し出て出場を確認すること。
4. 競技場への入退場について
 - (1) 入退場は競技役員の指示に従い、規律ある行動をとること。競技者以外はトラック、フィールド内に立ち入ることはできない。
 - (2) トラック競技出場者は、フィニッシュ後、第2ゲートを通り退場する。
 - (3) フィールド競技出場者の退場については、当該競技役員またはマーシャルの指示に従うこと。
5. ナンバーカードについて
 - (1) ナンバーカードは、交付された大きさのまま使用し、必ずユニホームの胸・背に確実に付けること。ただし跳躍競技の競技者は胸・背のいずれかでよい。
 - (2) トラック競技出場者は、腰ナンバーカードを招集所で受け取り、パンツ右側につけること。
 - (3) 3000m以上の競技（競歩も含む）は、レーンナンバーカードを使用する。
6. 走路順・試技順について
 - (1) 予選における走路順・試技順は、プログラム記載通りとする。
 - (2) 同タイムでのプラス進出者確定について
 - ア 800m以下の距離のトラック競技において、プラス進出者を決める場合、その最下位で同タイム者が出たときは写真判定を拡大し、細部（電気時計1/1000秒）まで読み取り着差を判定する。
 - イ 判定が不可能な場合は救済レーン（第9レーン）を使用するが、対象選手が救済可能なレーン数を上回る場合は、本人か代理人によって抽選する。ただし、800mでは安全上問題のない範囲でスタートからブレイクラインまでのセパレートコースについては、一つのレーンに複数の選手を入れて競技を行う。
 - ウ リレーを除く1500m以上のトラック競技において、プラス進出者を決める場合、その最下位で同タイム者が出たときは着差判定は行わずに対象者全員を次のラウンドに進出させる。
7. 競技について
 - (1) 事故防止のため、短距離走ではフィニッシュライン到着後も自分のレーン（曲走路）を走ること。
 - (2) リレー競走に出場するチームは、その種目の第1組目の招集完了時刻1時間前までに、オーダー用紙を競技者係に提出すること。提出時間に遅れたチームは当該種目を棄権したものとみなし処理する。
 - ア 申告したオーダー用紙の変更は、招集完了時刻までに主催者が任命した医務員の判断がない限り認められない。
 - イ 招集完了時刻前であっても、一度申告した編成の変更（オーダー用紙の差し替え）は認められない。
 - ウ 医務員の判断による変更は出場者のみ認められ、編成（走る順番）の変更は認められない。
 - (3) 男女4×100mRのテイク・オーバー・ゾーンは30mとする。
 - (4) 男女の競歩競技においては制限時間を設け、それを超えた場合は競技を中止させる。（男子35分、女子40分。ただし男子5名・女子7名までは残す）
 - (5) 競技規則162条7により、不正スタートをした競技者は1回で失格とする。「On your marks」あるいは「Set」の合図の後、音声や動作、その他の方法で他の競技者を妨害したとき、審判長がイエローカードを示し警告を与える場合がある。同一種目において2枚のイエローカードを受けた競技者は当該競技を失格とするが、それ以後の種目の出場を妨げない。
 - (6) 競技場内での助力は一切禁止する。コーチングエリアから助言を与える場合は場内司令が該当種目の競技役員の指示に従い、競技運営や他の競技者の妨げにならないように注意すること。また、コーチングエリアでは、映像機器の画像を競技者に見せることは出来ないが、手渡すことは出来ない。

* 応援は節度を持ち、大会の進行や競技運営に支障が出ないように行う。歌や、集団による飛び跳ね等は禁止する。
 - (7) フィールド種目における30秒ルールについては、各担当審判員の指示に従うこと。
8. バーの上げ方について
 - (1) 走高跳・棒高跳のバーの上げ方は下記の通りである。

種 目	練 習	1	2	3	4	5	備 考
男子走高跳	決勝 1 m65	1 m70	1 m75	1 m80	1 m85	1 m88	以降3cm刻みとする
女子走高跳	決勝 1 m25	1 m30	1 m35	1 m40	1 m45	1 m48	以降3cm刻みとする
男子棒高跳	決勝 2 m90	3 m00	3 m10	3 m20	3 m30	3 m40	以降10cm刻みとする
女子棒高跳	決勝 1 m50	1 m60	1 m70	1 m80	1 m90	2 m00	以降10cm刻みとする

- (2) 走高跳・棒高跳で第1位及び全道大会出場権決定の場合のバーの上げ下げは、走高跳では2cm、棒高跳では5cm単位とする。
9. 予選通過記録

種目	男子走幅跳	男子砲丸投	男子円盤投	男子やり投	女子やり投	備 考
	6 m00	10m00	25m00	42m00	25m00	天候その他の条件で変更することもある。

10. 競技に使用する器具は、全て主催者が用意したものを使わなければならない。やりは検定を受けて通ったものを使用することができ。検定時間は、7:40～8:10までとする。ただし、棒高跳用ボールに限り個人所有のものを使用できる。
11. スパイクの長さは、9mmをこえてはならない。走高跳、やり投は12mmをこえてはならない。
12. 各種目3位までの入賞者は、競技終了後ただちに表彰する（代理でも良い）。4～8位の入賞者は、競技場正面入口で賞状を受け取る。
13. その他
 - (1) 全道大会出場権を得た競技者の監督は、この大会の最終日までに全道大会申込みを完了すること。
 - (2) 各種目の全道大会出場権は、下記の順位までである。また、8位入賞者で参加資格を得ていない者の中から、決勝において、別に掲げる標準記録を突破した者には、参加資格を与える。

種 目	100m	200m	400m	800m	1500m	3000m	5000m	100H/110H	400H	3000mSC	競 歩
男	16	16	16	16	16	—	16	16	16	16	5
女	16	16	16	16	16	13	—	16	16	—	7
種 目	400R	1600R	走高跳	棒高跳	走幅跳	三段跳	砲丸投	円盤投	ハンマー投	やり投	
男	16	16	12	8	12	12	12	12	10	12	
女	16	16	12	8	12	8	12	12	5	12	